

令和5年度 高山村地域学校協働活動における目標等の設定

都道府県名	10_群馬県
市区町村名	104281_高山村
自治体区分	

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	
104281_高山村	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	社会のつながりの中で学ぶ活動を増やしていくとともに郷土愛を育むことが過疎が進むの村の課題である	地域学校協働活動推進員が学校と地域をつなぐ役目となり、各学年に地域人材・資源を活用した体験的な学習ができるようコーディネートする。	地域人材・資源を活用した体験的な活動を通して子ども達が地域社会で生きる力をつけるとともに地元高山村や群馬県が大好きになる。また、地域人材の生きがいや地域づくりにつなげていくことで地域の活性化に繋げていく	小1～中3までの実施学年数	5	学年	9	8	4	地域学校協働活動推進員が小・中学校の教員と連携を図り、各学年や全校の児童生徒を対象にした学習活動の際に、地域の人材や資源を活用した取組を行うことができた。高山村の主要産業である農業や林業の関係者から直接話を聞いたり、実際に現場に行き体験活動をしたりする機会を設けることができた。また、学習したことを元にお礼の手紙を書いたものを届けたり、成果物を地域の施設に掲示したりする活動を通して、高山村の魅力に、児童生徒が気付くことができた。
104281_高山村	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	学校及び地域へ「地域学校協働活動」の周知徹底を図り、年度が替わっても学校支援が継続できるような仕組み作りや地域が学校の教育活動に関心を持つことが課題である。	学校支援ボランティアの窓口を地域学校協働活動推進員が一括してできるようにする。また、広報誌を年3回発行し地域学校協働活動への理解と周知を図る。地域学校協働活動推進員と学校との連絡体制を強固なものとする。	「地域の中の学校」を教職員及び地域住民が自覚し、地域全体で子ども達を育てる	新たなボランティアの数や団体の数(延べ人数)	100	人	200	150	3	地域学校協働活動推進員が学校運営協議会において、活動報告を行う機会を設定すると共に、活動に協力してくれる人材を呼びかけることで、多方面の人に学校支援に関わってもらえるようにした。また、こども園や小中学校の保護者へ向けて、地域学校協働活動についての説明をする機会を設け、周知と協力依頼を行った。保護者や地域の人材で、今まで関わっていなかった人たちの参加が十分ではなかったため、さらなる周知や参加する際のハードルを下げるような工夫を考えていく必要がある。
104281_高山村	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	子ども達が激動の社会を乗り越えるために多様な体験活動を充実させていくことが課題である	・毎週金曜日の小学校「放課後子ども教室」での体験的な活動の充実 ・土曜日や長期休みを利用した「きゅうじつ子ども教室」の充実	子ども達が様々な体験的な活動を通して生きる力をつけるとともに友情や豊かな心を育てる	子ども教室参加者の参加者数(延べ人数)	300	人	400	530	4	コロナ禍における制限も終わり、例年通りの実施ができるようになったため、参加人数が増加した。地域の支援員の協力で、子どもたちは工作や集団遊びなどをとおして人と関わり方を学び、豊かな心を育んでいる。参加する児童が決まっているので、継続参加でなくても参加できることを伝えて、新規の参加者を増やしていきたい。
104281_高山村	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	グローバルな社会への対応が課題である	月曜日の放課後中学生に向けた英語教室を年30回開催する。講師には地域の英語指導ができる人材を学習支援員として活用し、学校の授業+αの英会話なども指導する。	学校の学習に加え、学校とは異なる環境での英語教育により視野が広がる	英語教室への参加延べ人数	200	人	300	190	3	本年度は中学生の海外派遣事業を開催することができたため、それに向けて中学2年生・3年生がほとんど参加した。学習支援員だけでなく、村内在住の外国人の方や外国在住経験者の方にもゲストティーチャーとして来ていただき、より実生活に即した英語を学ぶ機会とすることができた。中1英語塾への生徒の参加率が低かったため、中学校とも協力しながら、活動内容の紹介や意義について伝えていきたい。